

令和5年度 原子力被災自治体における 住民意向調査 調査結果（概要）

■調査の概要

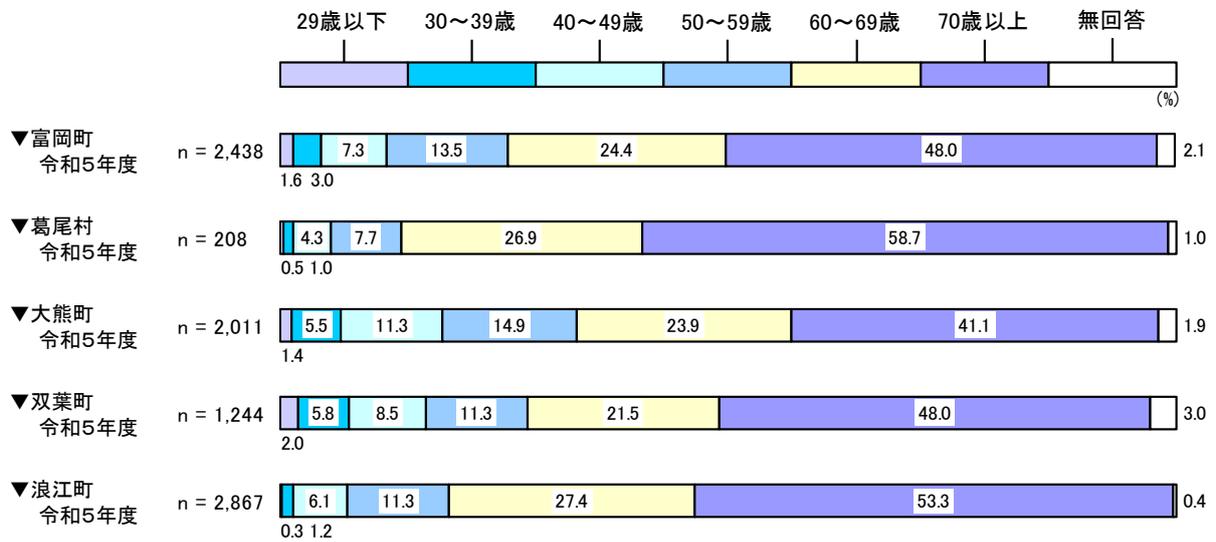
1. 調査目的：福島県内の原子力災害による避難住民の早期帰還・定住に向けた環境整備等のための基礎情報収集を目的に住民意向調査を実施
2. 調査主体：復興庁、福島県、各町村が共同で実施
3. 実施市町村：富岡町、葛尾村、大熊町、双葉町、浪江町の5町村
4. 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）
5. 調査対象：各世帯の代表者
6. 主な調査項目：帰還に関する意向、帰還の判断に必要な条件など

■調査対象となった各町村の調査実施状況は以下のとおり。

	対象町	対象地域	記名・無記名	対象世帯数	回答世帯数	有効回収率	調査実施期間
1	富岡町	全域	無記名	5,993	2,438	40.7% (41.9%)	令和5年 8月28日～9月18日
2	葛尾村	全域	記名	438	208	47.5% (61.1%)	令和5年 9月19日～10月9日
3	大熊町	全域	無記名	5,139	2,011	39.1% (42.6%)	令和5年 10月16日～11月5日
4	双葉町	全域	記名	3,244	1,244	38.3% (39.6%)	令和5年 10月30日～11月19日
5	浪江町	全域	記名	7,222	2,867	39.7% (47.2%)	令和5年 11月20日～12月10日

※富岡町・双葉町・浪江町の（ ）内は令和4年度／葛尾村・大熊町の（ ）内は令和3年度

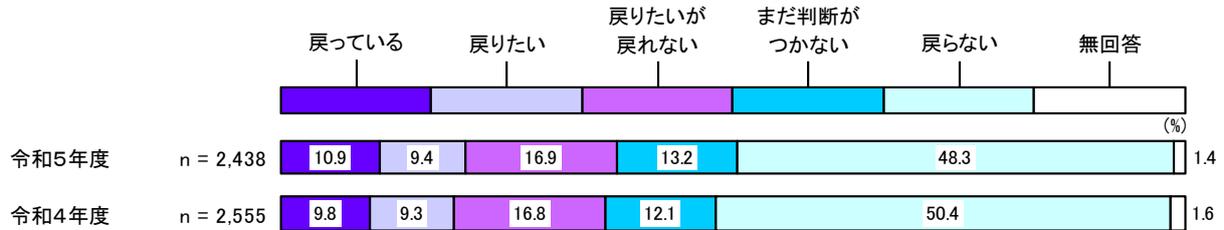
回答者の属性（年齢）



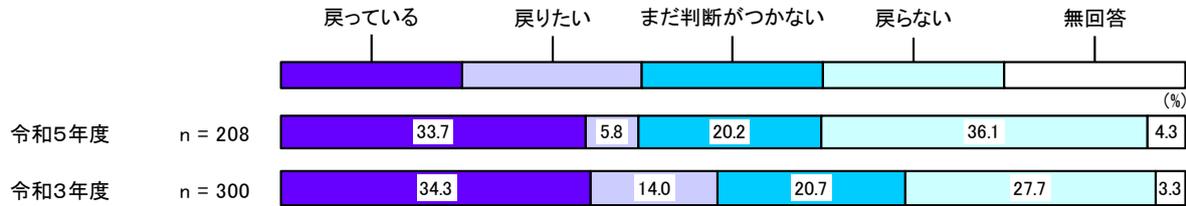
帰還意向

○令和5年度の調査結果によると、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町の4町で、「戻っている」及び「戻りたい」と回答した方の割合（合算）が増加している。

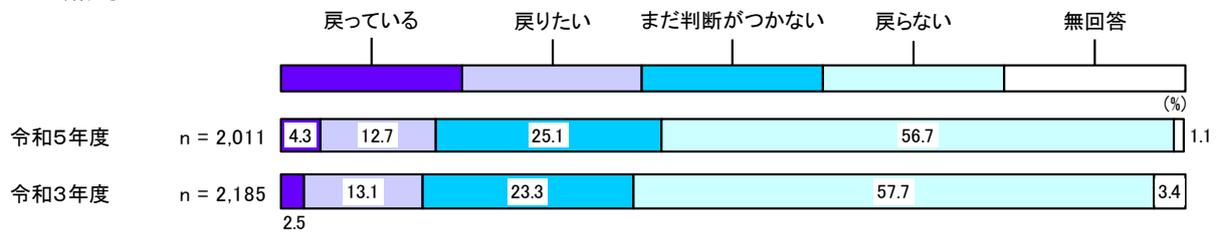
<富岡町>



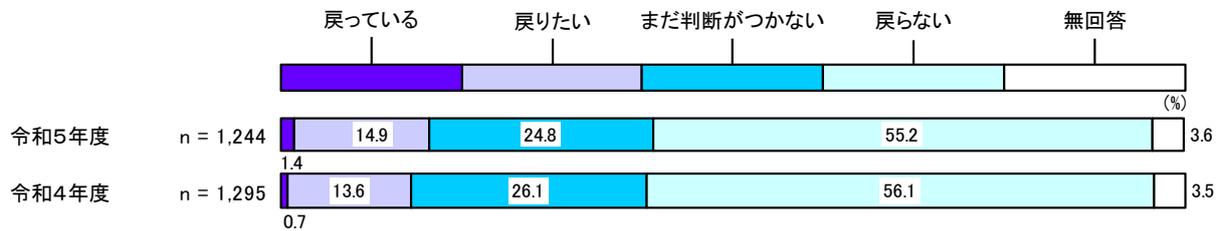
<葛尾村>



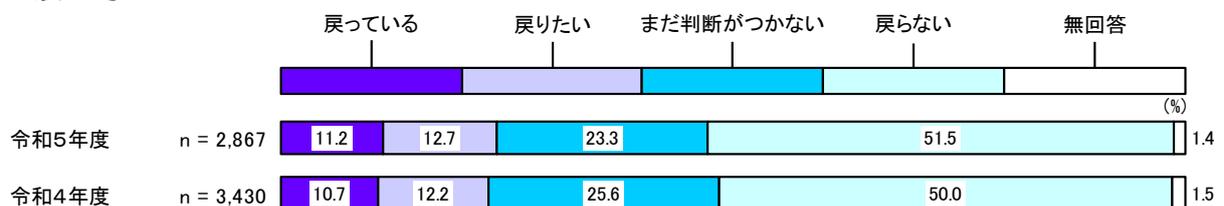
<大熊町>



<双葉町>



<浪江町>



帰還を決めた理由

○帰還意向において「戻っている」と回答した方が帰還を決めた理由として、「気持ちが安らぐこと」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和5年度 n=265	気持ちが安らぐこと 57.7%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 41.9%	医療機関が開院したこと 41.1%	放射線量が低減された こと 40.8%	役場機能が再開した こと 40.8%
葛尾村 令和5年度 n=70	葛尾村での生活は 気持ちが安らぐから 75.7%	農地等の管理・耕作の ため 54.3%	放射線量が低減される など、不安が少しずつ 払拭されてきたから 20.0%	友人・知人等が村内に 多く居住しているから 20.0%	勤務先が近いから 14.3%
大熊町 令和5年度 n=87	気持ちが安らぐこと 55.2%	役場機能が再開したこと 49.4%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 32.2%	自宅や公営住宅等が 整備されたこと 31.0%	放射線量が低減された こと 26.4%
浪江町 令和5年度 n=322	浪江での生活は気持ちが 安らぐから 69.9%	放射線量が低減される など、不安が少しずつ 払拭されてきたから 23.0%	勤務先が近いから 17.1%	友人・知人等が町内に 多く居住しているから 13.0%	見守り隊のパトロール などにより安心して生活 できると判断したから 10.2%

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和4年度 n=251	気持ちが安らぐこと 55.4%	医療機関が開院したこと 41.8%	役場機能が再開したこと 40.6%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 37.8%	放射線量が低減された こと 31.1%
葛尾村 令和3年度 n=103	葛尾村での生活は気持ちが 安らぐから 76.7%	農地等の管理・耕作のため 52.4%	放射線量が低減される など、不安が少しずつ 払拭されてきたから 27.2%	友人・知人等が村内に 多く居住しているから 18.4%	勤務先が近いから 12.6%
大熊町 令和3年度 n=55	気持ちが安らぐこと 40.0%	役場機能が再開したこと 38.2%	自宅や公営住宅等が 整備されたこと 23.6%	放射線量が低減された こと 20.0%	自宅周辺の除染・避難指示 解除が実施される見込みが あること、等 14.5%
浪江町 令和4年度 n=368	浪江での生活は気持ちが 安らぐから 70.7%	放射線量が低減される など、不安が少しずつ 払拭されてきたから 27.4%	勤務先が近いから 15.5%	友人・知人等が町内に 多く居住しているから 13.9%	見守り隊のパトロール などにより安心して生活 できると判断したから 11.4%

■大熊町は、「自宅周辺の除染・避難指示解除が実施される見込みがあること」「水道水等、生活用水の安全性が確認されたこと」の2項目が同率で5位となっている

帰還を判断するために必要な条件

○帰還意向において「まだ判断がつかない」と回答した方が、帰還を判断するために必要な条件として、「医療機関の拡充等」「商業施設の充実」「介護・福祉施設の充実」「住民の帰還状況」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和5年度 n=321	医療機関(診療科)の拡充 62.6%	商業施設の充実 52.3%	介護・福祉施設の充実 43.3%	どの程度の住民が 戻るかの状況 36.4%	防犯・防火対策の強化 24.3%
葛尾村 令和5年度 n=42	医療機関(診療科)の拡充 54.8%	公共交通機関の充実 42.9%	介護・福祉施設の充実 40.5%	商業施設の充実 21.4%	どの程度の住民が 戻るかの状況 19.0%
大熊町 令和5年度 n=505	病院、道路、公共交通 などの社会基盤(インフラ) の復旧時期の目途 69.1%	住宅確保への支援に 関する情報 43.8%	どの程度の住民が 戻るかの状況 40.6%	放射線量の低下の目途、 除染成果の状況 30.7%	働く場の確保の目途 30.3%
双葉町 令和5年度 n=309	医療・介護福祉施設の 再開や新設 47.2%	商業施設の再開や新設 26.5%	住宅の再建に関する支援 19.4%	上下水道等ライフラインの 整備状況に関する情報 17.8%	双葉町の今後の姿 16.5%

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和4年度 n=309	医療機関(診療科)の拡充 57.9%	商業施設の充実 47.9%	どの程度の住民が 戻るかの状況 36.6%	介護・福祉施設の充実 34.3%	防犯・防火対策の強化 20.7%
葛尾村 令和3年度 n=62	医療機関(診療科)の拡充 45.2%	介護・福祉施設の充実 29.0%	商業施設の充実 24.2%	公共交通機関の充実 22.6%	どの程度の住民が 戻るかの状況 21.0%
大熊町 令和3年度 n=509	病院、道路、公共交通など の社会基盤(インフラ)の 復旧時期の目途 67.0%	どの程度の住民が 戻るかの状況 42.4%	住宅確保への支援に 関する情報 41.8%	放射線量の低下の目途、 除染成果の状況 39.9%	帰還困難区域の避難指示 解除となる時期の目安に 関する情報 39.1%
双葉町 令和4年度 n=338	医療・介護福祉施設の 再開や新設 45.6%	商業施設の再開や新設 30.8%	除染・解体に関する情報 19.8%	上下水道等ライフラインの 整備状況に関する情報 18.0%	双葉町の今後の姿 13.3%
浪江町 令和4年度 n=877	医療・介護の復旧時期の 目途 57.4%	商業やサービス業などの 施設の復旧時期の目途 36.3%	どの程度の住民が 戻るかの状況 33.8%	住宅確保への支援に 関する情報 24.6%	放射線量の低下の目途、 除染成果の状況 21.8%

帰還しないと決めている理由

○帰還意向において「戻らない」と回答した方が、帰還しないと決めている理由として、「すでに生活基盤ができているから」「避難先の方が、生活利便性が高いから」「医療環境に不安があるから」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和5年度 n=1,177	すでに生活基盤ができているから 63.6%	避難先の方が、生活利便性が高いから 41.0%	医療環境に不安があるから 26.4%	生活に必要な商業施設などが不足しているから 21.8%	高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから 17.8%
葛尾村 令和5年度 n=75	すでに生活基盤ができているから 44.0%	避難先の方が、生活利便性が高いから 40.0%	医療環境に不安があるから 36.0%	高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから 33.3%	葛尾村外への移動交通が不便だから 26.7%
大熊町 令和5年度 n=1,141	すでに生活基盤ができているから 60.9%	避難先の方が、生活利便性が高いから 42.1%	医療環境に不安があるから 34.4%	生活に必要な商業施設などが不足しているから 30.3%	高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから 20.9%
双葉町 令和5年度 n=687	避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから 54.6%	すでに自宅を解体してしまっているから 42.6%	避難先の方が、生活利便性が高いから 35.1%	医療環境に不安があるから 31.6%	生活に必要な商店などが元に戻りそうにないから 23.0%
浪江町 令和5年度 n=1,476	すでに生活基盤ができているから 56.4%	元の住家を解体しており、戻る家がないから 54.2%	避難先の方が、生活利便性が高いから 41.9%	医療環境に不安があるから 41.2%	生活に必要な商業施設などが不足しているから 26.8%

< (参考) 前回調査結果 >

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和4年度 n=1,287	すでに生活基盤ができているから 64.2%	避難先の方が、生活利便性が高いから 42.7%	医療環境に不安があるから 30.8%	生活に必要な商業施設などが不足しているから 24.9%	原子力発電所の安全性に不安があるから 22.5%
葛尾村 令和3年度 n=83	避難先の方が、生活利便性が高いから 45.8%	医療環境に不安があるから 37.3%	すでに生活基盤ができているから 36.1%	葛尾村外への移動交通が不便だから 28.9%	高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから 25.3%
大熊町 令和3年度 n=1,261	すでに生活基盤ができているから 60.7%	避難先の方が、生活利便性が高いから 42.0%	医療環境に不安があるから 37.7%	生活に必要な商業施設などが不足しているから 32.9%	家が汚損・劣化し、住める状況ではないから 25.0%
双葉町 令和4年度 n=727	避難先で自宅を購入または建築し、将来も継続的に居住する予定だから 55.2%	すでに自宅を解体してしまっているから 41.0%	医療環境に不安があるから 41.0%	避難先の方が、生活利便性が高いから 33.7%	生活に必要な商店などが元に戻りそうにないから 30.5%
浪江町 令和4年度 n=1,715	すでに生活基盤ができているから 52.2%	元の住家を解体しており、戻る家がないから 49.7%	避難先の方が、生活利便性が高いから 43.0%	医療環境に不安があるから 39.3%	生活に必要な商業施設などが不足しているから 25.2%